

2. 今どきの子育て

時代の流れとともに子育ての考え方も変わってきています。
今どきの子育てをお母さんと一緒に、新鮮な気持ちで体験しませんか。

だっこ

だっこは人への信頼感がはぐくまれるとして心の成長に大切なものとされており、抱き癖がつくことはあまり気にしなくてよいとされています。

授乳

母乳の場合は授乳間隔に関わらず欲しがる時に与えてよいとされています。

卒乳

自然とおっぱいを欲しがらなくなるまで授乳を続けてよいとされています。そのため、「断乳」と言われていたものも「卒乳」という優しい表現に変わっています。

うつぶせ寝

現在は乳幼児突然死症候群（SIDS）※1を防ぐためにもあおむけ寝が推奨されています。

離乳食

母乳やミルクの量が減ってしまうと考えられるため、離乳食の開始前に果汁を与える必要はないとされています。

オムツ外し

トイレトレーニングは、子どもの状況を見ながらゆっくり進めてよいとされています。

アレルギー ※2

現在はさまざまな食品でアレルギー症状が起きることが分かっています。食品を与えるときには、まずはご両親に確認をしてからあげるようにしましょう。少量でもアレルギー症状は強く出る場合があります。

※1 乳幼児突然死症候群（SIDS）とは

乳幼児突然死症候群とは、何の予兆もないままに、主に1歳未満の健康に見えた乳児に突然死をもたらす疾患のことです。

乳幼児突然死症候群（SIDS）から守るために、厚生労働省は次の3つのポイントをあげています。

- ① あおむけ寝（うつぶせ寝の方がSIDSになる可能性が高いことが調査により分かっています）
- ② 母乳育児（母乳で育てる方がSIDSになる可能性が低いことが分かっています）
- ③ 禁煙（保護者が喫煙をしているとSIDSになる可能性が高くなることが分かっています）

※2 乳幼児のアレルギーについて

乳児期に表れやすいアレルギー症状

- ① 皮膚症状（湿疹、じんましんなど）
- ② 呼吸器症状（咳、呼吸困難など）
- ③ 粘膜症状（口唇、粘膜の腫れなど）
- ④ 消化管症状（下痢、嘔吐など）

食物アレルギーの原因となるのは、乳幼児の場合、ほとんどが鶏卵、牛乳、小麦と言われています。アレルギー症状が疑われる場合は、自己判断で食物を除去せずに早めに医療機関を受診しましょう。

